

さめうら水源の森整備上下流交流会を実施しました

水資源機構吉野川局・香川用水総合事業所・池田総合管理所・旧吉野川河口堰管理所では、5月10・11日の2日間にわたり、高知県大川村にて「さめうら水源の森整備上下流交流会」を実施いたしました。

この交流会は、徳島県のNPO法人新町川を守る会が行っている「3001年の森」の植樹活動と併せて行っているもので、今回はNPO法人新町川を守る会をはじめ、高知県のNPO法人れいほく活性化機構・香川用土地改良区から総勢約40名が参加して行われました。

1日目（5月10日）は、あいにくの雨模様となりましたが、NPO法人新町川を守る会が管理している「3001年の森」にて、全員カップに身を包み、鎌などを使って下草刈りを行いました。気温も低く、足もとの悪い中、けがもなく無事終了することができました。

その後、参加者による交流会が行われ、これまでの活動内容報告や自己紹介などを行い、参加者の親睦を深めました。

2日目（5月11日）は、昨日の天気とうそのような快晴となり、絶好の植樹日和となりました。この日は、早明浦ダム上流にて森林整備を行っている、さめうら水源の森ネットワークが管理している「さめうら水源の森演習林」において、午前中は下草刈りと土の掘り方や接ぎ木の方法などの指導を受けながら、クルミやペカンなどの苗木、約20本の植樹を行いました。

午後からは、香川用土地改良区と水資源機構で、チェーンソーを使った間伐講習を行いました。

今後も、このような上下流交流の場を通じて、水源の森や吉野川流域の環境保全の大切さを多くの方々に知っていただき、思いを共有できたらと考えています。



雨の中での下草刈り（3001年の森）



参加者全員での集合写真



植樹作業